

【India Japan Forum】宿利会長スピーチ(和文)(2025 年 12 月 7 日)  
Session 5: “Third Horizon: Expanding Bilateral Cooperation Across Borders”

## 1.冒頭、紹介

### (1) 冒頭

御列席の皆様、ナマスカー(こんにちは)。運輸総合研究所、JTTRI 会長、国際高速鉄道協会(IHRA)理事長、そして日本海事センター会長の宿利正史です。本日ここデリーで India Japan Forum が盛大に開催されることを心よりお祝い申し上げます。

### (2) JTTRI 紹介

・JTTRI は、日本の産学官によって 1968 年に設立されたシンクタンクです。  
・海外の2つの海外拠点と連携し、包括的な研究調査を通じて交通運輸及び観光に関する政策提言を行ってきており、その際、「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」を実現するために交通運輸及び観光が果たすべき重要な役割を常に意識しています。

### (3) 産業に関するインドと日本との関係

・まず、インドの製造業分野に関しては、日本は、40 年以上にわたるマルチ・スズキのように、他国に先駆けてインドと協力関係にありました。  
・その他にも、日印両国では交通運輸及び観光分野で様々な協力が深められてきています。  
・本日は、交通分野におけるさらなる協力の可能性についてお話を致します

## 2. 鉄道

### (1) デリーメトロ/DFC

日印協力の「輝かしい事例」は“デリーメトロ”であり、現在の東京の地下鉄網を超える全長 400km 以上に成長しました。今やデリーの市民は、渋滞を心配せずに、安全・快適に、時間どおりに移動することができます。同じく重要なことに、日本のノウハウを得たデリーメトロの職員が、現在、ムンバイ等国内の他都市やインドネシア、バングラデシュ等海外の鉄道事業に従事しています。他にも、デリー・ムンバイ間を結ぶ貨物専用鉄道(Dedicated Freight Corridor(DFC))西回廊も、日印が協力して進めている重要なインフラ事業です。

### (2) 高速鉄道

日本の高速鉄道、「新幹線」は開業以来 61 年間、事故死者ゼロと遅延 1 分という世界最高水準の安全性と信頼性を備え、高速で高頻度運行を今日まで継続しています。現在、ムンバイ・アーメダバード間で、その日本の新幹線技術に基づいた高速鉄道の建設が、日印で協力しながら進められています。私は、IHRA 理事長として、2018 年以来毎年のように現場を訪れ、インフラの建設が進んでいるのを見ていますが、日本の新幹線がトータルシステムとしてインドに導入されることが最も重要であることを強く強調したいと思います。

## 3.海事分野

### (1) FOIP 実現のための日印連携の重要性 <118 語=1 分>

さらに、我が国とインドはいずれも非常に長い海岸線で大きな海洋に面しており、世界で最も重要なシーレーンの多くに囲まれていて、グローバルな物流に関して、インド・太平洋の要衝に位置していることがわかり頂けます。

また、貿易量でも、我が国は 99.6%、インドは 95%を海上輸送が担っており、日印両国いずれも安全なシーレーンの確保という共通の課題に向き合っています。「自由で開かれたインド太平洋」の原則にある「法の支配」や「自由で開かれた海」を維持するためには、今後、日印両国が海事分野において、相互に、及び他の諸国とも連携を進めていくことがますます重要になります。

## (2)造船

このように、とりわけ造船業は、国家の経済的発展のためだけでなく、経済安全保障面でもますます重要になっています。日本は、第二次世界大戦で造船能力をほとんど失いましたが、政府と民間事業者の努力で日本の造船業は 1956 年に世界1位となりました。しかしながら、2000 年代以降、政府の強い支援を受けた韓国や中国に首位を奪われております。私は、日本の造船技術は今でも世界で最も優れたものと信じており、また、日本政府は先月、造船能力の抜本的向上に向けて、基金を創設し、造船業再生に取り組むことを決定しております。

私は、日本とインドがそれぞれ可能な協力を行うことで、我が国の造船技術が将来的なインドの造船業の成長に大きく貢献していくことを願っております。

## 4. 結び

技術移転によって日本から得たノウハウを活用して第三国に対する事業が行われているマルチ・スズキ、デリーメトロの成功事例に鑑みれば、日印両国が鉄道、海事に加えて、脱炭素、デジタル技術を活用したスマートモビリティ、物流をも含む交通運輸分野で協力を継続し、深めることにより、将来的な海外における協調した広範囲での協力につながる可能性があり、共に、輝かしい未来を形づくっていくことができると信じています。

ダンニャワード(Dhanyawaad)。御清聴、ありがとうございました。